

平成19年度 水と緑の森づくり事業 事業費の概要

1. 富山県水と緑の森づくり基金積立額

275 百万円

内訳	水と緑の森づくり税込相当額	270 百万円
	寄 付 金	5 百万円

当初予算額

実 施 額

2. 水と緑の森づくり事業費

270 百万円

259 百万円

	当初予算額	実 施 額
水と緑の森づくり推進事業	1 百万円	1 百万円
里山再生整備事業	61 百万円	83 百万円
みどりの森再生事業	100 百万円	75 百万円
とやまの森づくりサポートセンター活動推進事業	29 百万円	28 百万円
とやまの森づくり総合情報システム事業	28 百万円	25 百万円
とやまの森づくり普及啓発推進事業	3 百万円	3 百万円
県産材利用促進事業	40 百万円	36 百万円
県民による森づくり提案事業	9 百万円	8 百万円

I 水と緑の森づくり推進事業

県民全体で支えるとやまの森づくりを推進し、森づくりの計画、実行の改善のための評価を実施します。

○平成19年度事業の実績 実施額 1百万円

(1) 富山県水と緑の森づくり会議の開催

県民全体で支える森づくりを推進するため、森づくり全般について、県内の各界の代表者や有識者から幅広く意見を伺いました。

第1回 平成19年5月30日

議題

平成19年度事業計画の報告

「県民による森づくり提案事業(県民実施事業)」の採択審査 など

第2回 平成19年11月22日

議題

平成19年度事業実施状況の報告

「県民による森づくり提案事業(アイデア提案)」の審査

平成20年度事業への提案 など

(2) 富山県森林審議会森づくり部会の開催

水と緑の森づくり事業について、専門的・技術的立場から評価するための評価方法などについて検討しました。

第1回 平成19年6月5日

内容

森づくり事業の評価方法の検討

里山再生整備事業実施予定地の現地調査 など

第2回 平成19年12月19日

内容

平成19年度事業の実施状況の報告

森づくり事業の評価方法の決定 など



富山県水と緑の森づくり会議で議長（石井知事）があいさつ。



森林審議会森づくり部会が里山再生整備事業の実施予定地を現地調査しました。

Ⅱ 里山再生整備事業

地域や生活に密着した里山を再生するため、里山の再生整備を県民協働で実施します。

○平成19年度事業の実績 実施額 8千3百万円

野生動物との棲み分けや景観の保全などを旨として、里山管理利用計画の策定や里山林整備、地域住民による整備活動の支援などを行いました。

モデルとなる取組みを実施した黒部市若栗地区での開始式には石井知事、堀内黒部市長らも参加し、地域住民など150名が里山林の整備に汗を流しました。

事業実施地区	44地区（14市町）
対象面積	366ha
事業主体	市町村



里山再生モデル林での森林整備開始式では地域住民等150名が里山林の整備に汗を流しました。



森林整備の実施により明るく見通しの良い里山林によみがえりました。

○平成19年度事業の評価

評価対象：里山林整備の実施面積

評価方法：計画面積に対する進捗状況の評価

平成23年度末累計整備面積	1,000ha
平成19年度計画整備面積	200ha

県民の里山再生への関心や地域等からの要望の高まりにより、平成19年度の実施面積は366ha（進捗率36.6%）と計画を大きく上回り「達成」と評価されました。

Ⅲ みどりの森再生事業

人工林の公益的機能の向上を図るため、風雪被害林や過密人工林などを、スギと広葉樹の混交林へと誘導するための森林整備を実施します。

○平成19年度事業の実績 実施額 7千5百万円

(1) 風雪被害林の整理の実施

平成16年に県西部を中心に発生した風雪被害林での倒木や折損木を整理しました。
また、高岡市福岡町上野地内では、「上下流連携植樹の集い」を開催し、地元森林所有者や地元企業の方々のほか、岐阜県関係者や漁業関係者、地元企業の方々とともに広葉樹の植樹活動を実施しました。

事業実施箇所	11地区（7市町）
整備面積	42.1ha
事業主体	県

(2) 過密人工林の整理の実施

十分な手入れがなされず過密となった人工林に、広葉樹が発生し生育する環境を整えるための伐採を実施しました。

事業実施箇所	11地区（8市町）
整備面積	19.3ha
事業主体	県



風雪被害を受けた倒木や折損木を整理した跡地で「上下流連携植樹の集い」を開催し、コナラやサクラなどの広葉樹の植樹活動を行ないました。



過密人工林を伐採し、林内に日光が射し込むようにすることで、広葉樹が発生し成長しやすい環境を整えました。

○平成19年度事業の評価

評価対象：混交林整備の実施面積

評価方法：整備目標に対する進捗状況を評価

平成23年度末累計整備面積	1,000ha
平成19年度計画整備面積	70ha

地域等からの要望の高い里山再生整備事業を優先して実施した結果、当事業の実施面積は61ha（進捗率6.1%）となりましたが、計画面積の80%以上の実績となったことから「ほぼ達成」と評価されました。

Ⅳ とやまの森づくりサポートセンター活動推進事業

県民参加による森づくりを推進するため、森林ボランティア等を総合的・専門的に支援します。

○平成19年度事業の実績 実施額 2千8百万円

(1) 登録団体数等（平成20年3月31日現在）

43団体 2,903人 11企業

(2) 県民参加による森づくり参加延べ人数

サポートセンター登録団体・個人	6,183人
企業の森づくり（サポートセンター登録企業）	407人
サポートセンター主催活動	277人
里山再生整備事業（地域外からの参加者数）	53人
合計	6,920人

(3) ボランティアの活動支援の実施

登録団体へのヘルメットや草刈り鎌、伐採木竹を処理するチップパーなど機材の貸出し、保険料等の支援、作業技術等の向上のための「森づくり塾」の開催 など

(4) 体験ボランティアやボランティアのネットワーク化支援の実施

森づくりボランティアの集い等の開催、ボランティア交流サロンの設置 など

(5) PR活動の実施

登録団体が活動時に掲げる「のぼり旗」や、店舗店頭を設置する「ミニ旗」、企業の森づくりのPRパンフレットの作成・配布 など



伐採木竹を処理するチップパーを貸し出しています。



ボランティアの集いには石井知事も応援に駆けつけました。



ミニ旗を作成し、店舗店頭を設置しPR活動を行ないました。

○平成19年度事業の評価

評価対象：県内におけるボランティアの活動状況

評価方法：森づくり参加延べ人数の達成状況で評価

平成23年度末計画参加人数 6,000人

平成23年度末における計画人数6,000人に対し、平成19年度はそれを上回る6,920人も参加実績があったことから「達成」と評価されました。

V とやまの森づくり総合情報システム事業

森づくりへの県民の理解を深め、県民参加を推進するため、とやまの森の現状や森づくり活動に関する情報を県民の皆さんに提供します。

○平成19年度事業の実績 実施額 2千5百万円

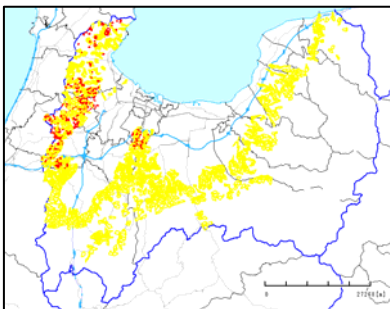
(1) 森林GISシステムの整備

人工林、天然林、樹種などの分析データ、里山再生整備事業やみどりの森再生事業の実施区域、ツキノワグマの出没地点などを、地形図や航空写真上に表示するため「森林GISシステム」を整備しました。

(2) とやまの森づくりホームページの公開

森林GISシステムを用いて作成したとやまの森に関する情報図や、水と緑の森づくり事業を紹介する「とやまの森づくりホームページ」を作成し公開しました。

URL <http://www.pref.toyama.jp/sections/1603/moridukuri/index.html>



森林GISを用いることで、混交林の整備対象地(黄色)と風雪被害林の位置(赤色)を富山県図に表示できます。



里山林の整備対象地とツキノワグマの出没地点、平成19年度森林整備区域のデータを航空写真上に重ねて表示することもできます。



とやまの森づくりホームページにより、水と緑の森づくり事業実施状況などについての情報発信を行ないました。

○平成19年度事業の評価

評価対象：森林GISデータの整備状況とその活用状況

評価方法：森づくり事業の評価・改善に向け、県民への情報提供に、森林GISデータをどのように活用したかを評価

- ・「森林GISシステム」を整備し、森づくり事業地を地形図や航空写真上に表示することが可能となり、森づくり事業の評価・改善に向けた基礎資料作成に活用することが出来るようになりました。
- ・森林GISシステムを用いて作成した森づくり情報図等、水と緑の森づくり事業に関する情報を紹介する「とやまの森づくりホームページ」を公開し、広く県民へ情報提供を行うことが出来るようになりました。

以上のことから「達成」と評価されました。

Ⅵ とやまの森づくり普及啓発推進事業

森づくりへの県民の理解を深め、県民参加を推進するため、出前講座や森林教室を開催します。

○平成19年度事業の実績 実施額 3百万円

(1) 「森の寺子屋」の開催

児童・生徒をはじめ、広く一般県民の森づくりに関する理解を深めるために、出前講座や森林教室を「森の寺子屋」として開催しました。

- ・ 出前講座 12回（参加人数 673人）
- ・ 森林教室 34回（参加人数 2,174人）

(2) フォレストリーダーの養成

「森の寺子屋」の指導者となるフォレストリーダーを新規養成しました。

- ・ 新規認定者数 62名
（参考：既認定者数 52名）
- ・ 養成講座開催 10回（H19.6.20～H19.10.23）



フォレストリーダーの養成講座では、座学だけではなく現地実習も実施しました。



「森の寺子屋」では、小学校などからの要請を受け、フォレストリーダーが出向いて講義などを行っています。

○平成19年度事業の評価

評価対象：①フォレストリーダーの養成状況 ②「森の寺子屋」の開催状況
評価方法：①フォレストリーダーの養成数で評価 ②「森の寺子屋」実施状況で評価

- ① フォレストリーダーについては計画養成者数30名に対し62名（受講64名）を養成しました。
- ② 「森の寺子屋」については、計画25回に対し実績46回と森づくりに関する理解を一層深めることができました。

以上のとおりいずれも計画を上回り、「達成」と評価されました。

Ⅶ 県産材利用促進事業

とやまの森づくりにつながる県産材利用への理解を深めるため、県産材を使った木製品の設置や公共施設の木質化を進めます。

○平成19年度事業の実績 実施額 3千6百万円

(1) 県産材くつろ木事業

公共施設、公共交通機関に県産スギで製作したベンチを設置しました。

・設置数 公共交通機関 22基 公共施設 138基

(2) 森の玉手箱プレゼント事業

県内全ての幼稚園、保育園や児童・福祉施設等に県産材積木を配布しました。

・配布施設数 591施設（1200セット）

(3) 県産材こどもの城づくり事業

園児のデザインによる木製遊具を親子の協力により製作・設置するとともに、親子による森の見学会を開催しました。

・実施施設数 4施設（青雲幼稚園 みつば幼稚園 牧野幼稚園 井波第一保育園）

(4) 森に親しむ学び舎づくり事業

小学校の学童机天板を県産材天板に置換えました。

・実施小学校数 4校（広田小学校 上滝小学校 横田小学校 津沢小学校）

(5) 木の香るまちづくり事業

公共施設の内装の木質化に支援しました。

・実施施設数 2施設（めひの野園 ルンビニ園）

(6) 県有施設木質化事業

県有施設の整備の際に県産材を使用しました。

・実施施設数 2施設（山室交番 女性相談センター）

(7) 県産材利用シンボルマーク募集事業

県産材を広くPRするためのシンボルマークを制定しました。



県産材シンボルマーク



駅の待合室などに県産材ベンチを設置しました。



県下全ての幼稚園、保育所等に県産材の積木を配布しました。

○平成19年度事業の評価

評価対象：木製品設置施設等での県産材の評価

評価方法：施設管理者等（先生、生徒含む）のアンケートにより評価

各事業を実施した施設管理者や施設利用者等に対してアンケート調査を行った結果、おおむね良好な意見が多く、県産材の良さをPRできたと判断されることから、「達成」と評価されました。

Ⅷ 県民による森づくり提案事業

県民参加の森づくりを進めるため、県民の皆さんが自ら企画・立案し、実施する森づくり事業への支援を行ないます。

また、水と緑の森づくり税を活用した事業のアイデアを募集し、事業への反映を検討します。

○平成19年度事業の実績 実施額 8百万円

(1) 県民実施事業への支援

県内で活動する団体やグループ等から、自ら企画・立案し、実施する森づくり事業を募集し、富山県水と緑の森づくり会議で採択し、支援を行ないました。

- ・ 応募件数15件 採択件数15件

(2) アイデア提案の募集

県民から、水と緑の森づくり税を活用した県が行なう事業のアイデアを募集し、富山県水と緑の森づくり会議で審査し、平成20年度事業などへの反映を検討しました。

- ・ 応募件数14件 うち5件について20年度事業に反映



地域で伐採した風倒木を利用してテーブルやイスを製作し、公園に設置されました。
(綾子里山再生利用の会)



被害林の整備や森林の大切さについて学ぶ森林教室を開催されました。
(財)オイスカ 富山県支部)

○平成19年度事業の評価

評価対象：県民実施事業の実行状況

評価方法：提案事業を総合的に評価

各団体とも地域に密着したきめ細かい事業を実施し、その参加人数も延べ3,935名と多くの県民が森づくりに参加する機会を提供することができました。

また、アイデア提案により県民意見を事業に反映することもできました。

以上のことから「達成」と評価されました。